

## 令和6年度廿日市市公共交通協議会（第6回）

日 時：令和7年3月18日（金）14時00分～14時50分

場 所：はつかいち文化ホール ウッドワンさくらびあ リハーサル室

委員総数：27名

出席委員数：23名（廿日市市公共交通協議会規約第8条第2項の規定による定足数を充足）

傍聴者数：0名

### 1 開会

### 2 審議

(1)議案第1号：令和7年度事業計画及び予算について

《質疑応答・意見》

会 長：質疑・意見等はないか。

委 員：大野地域の松ヶ原において、隣接する大竹市がバスの見直しを検討していると聞いている。進捗状況を教えてほしい。

事務局：大竹市と松ヶ原の住民で大竹・栗谷線バスの再編を協議している段階だと聞いている。現状は大竹市の動きを見守っている状況であるが、詳細な運行計画等が決まれば、廿日市市としての支援策を検討してまいりたい。

委 員：検討は継続されているという認識で良いか。

事務局：それで問題無い。

会 長：大竹市から補足があればお願いしたい。

委 員：大竹・栗谷線バスは定時定路線で運行するバスである。1年前から今後の方針を地域住民と協議しており、来年度から本格的に地域住民と協議を開始する予定である。バスを維持するのか、運行経路を変更するのか、他の移動手段へ変更するのか等を含め、様々な視点から検討を行うため、結論は遅くなる。

委 員：中山間地域の貨客混載について、いつ頃から実証運行を開始する予定か。

事務局：具体的な時期は決まっていない。地元と調整しながら実証実験の開始時期を決める予定である。

委 員：具体的な内容が決まった段階で広島運輸支局へも事前に情報共有していただきたい。

事務局：貨客混載で何を運ぶのか等も含め、ご相談させて頂きたい。

会 長：そのほか質疑・意見等はないか。

委 員：質疑・意見無し。

審議結果：提案のとおり承認

### 3 報告

(1)報告第1号：市自主運行バスにおけるモビリーデイズ利用状況及び高齢者運賃割引実証実験について

《質疑応答・意見》

会 長：質疑・意見等はないか。

委 員：マイナンバーカードとモビリーデイズを連携することで運賃が割引されるということであるが、この取組の主旨は、外出機会の促進や健康増進なのか、もしくはマイナンバー

カードの普及を目指したものなのか。マイナンバーカードが無ければ、割引を受けられないのは不公平感がある。

事務局：実証実験は高齢者外出機会の促進や健康増進が目的であり、マイナンバーカードの普及を主目的としているわけではない。

実験の中では、広島電鉄が開発しているモビリーデイズとマイナンバーカードの連携が上手くできるか検証しており、本格導入に向けて、公平性を担保できるようにマイナンバーカード以外での登録方法も検討中である。

委員：承知した。実証実験の段階ならいい施策だとは思いますが、本格導入の際には公平性を担保いただきたい。

会長：質疑・意見等はないか。

委員：意見なし。

会長：その他、ご意見ないようなので報告第1号の内容は以上とする。

(2)報告第2号：宮島島内乗合タクシー（メイプルライナー）の宮島地域住民割引額の一部変更について

《質疑応答・意見》

会長：質疑・意見等はないか。

委員：意見なし。

会長：その他、ご意見ないようなので報告第2号の内容は以上とする。

(3)報告第3号：佐伯デマンドバス（浅原線）の予約方法の追加について

会長：質疑・意見等はないか。

委員：意見なし。

会長：その他、ご意見ないようなので報告第3号の内容は以上とする。

## 4 その他

(1)その他：運転採用支援金について

《質疑応答・意見》

会長：質疑・意見等はないか。

委員：運転手はどれくらい不足しているか。

委員：コロナ禍や高齢化により、交通事業者へ就職する方が減っている。若い乗務員が入社しておらず、今後、さらに運転手が不足することになる。各社違うが、タクシー事業者の運転手の充足率は約60%である。

委員：バスでも運転手不足で路線を廃止せざるを得ない事業者が出てきていると聞いている。広島県内でも観光バス事業を廃業する事業者も出てきていると聞いた。

委員：当社の場合、市自主運行バスの運転手よりも、貸切バスの運転手が不足している状況である。市自主運行バスは応募があるが、貸切バスに関しては求人情報を出してから1年間応募がない状況である。

貸切バスは遠出する機会が多く、経験も必要なため、求人非常に苦労している。コロナ禍の3年間における雇い留めが影響し、経験者を育てなかったことが運転手の高齢化や、運転手不足の要因の1つになっていると思う。

※ここからは次第にはないが、意見として発言されたことを記載。

(2)その他：渡ノ瀬地区の移動支援について

《質疑応答・意見》

委員：旧大野町の社会福祉協議会から取り組んできた高齢者等の移動支援事業について、利用者負担額の増額をするなどしてなんとか継続してきた。

しかし、財源の関係もあり、令和8年度中に事業を廃止をする方向で令和7年度は検討せざるを得ない状況である。何か他に良い策はないか、交通政策課の知恵を借り、検討してまいりたいと考えている。

会長：旧大野町の具体的な場所はどこか。

委員：大野11区のレイク渡ノ瀬という団地付近である。

会長：議案1号で話にあがった松ヶ原地区に近い箇所でないかと思う。

事務局：渡ノ瀬地区については、公共交通の利用状況や社会福祉協議会が実施している取組の状況を十分把握できていない。これから、社会福祉協議会と協力して今後の移動手段について検討したい。また、松ヶ原地区についても併せて検討してまいりたい。

(3)その他：モビリーデイズ利用状況の補足

《質疑応答・意見》

委員：モビリーデイズの利用状況について補足する。昨年7月にサービスを開始し、現時点で登録者は19万人以上となっている。

令和7年3月29日にパスピーが終了するため、まだ切り替えが済んでない方は早めに切り替えるように周知いただきたい。

登録方法は、アプリ、web、窓口があるが、窓口は混雑しているため、スマホから登録ができる方はアプリやwebからの登録をお願いしている。パスピー残金の払い戻しは、令和7年3月末まで窓口にて対応している。

イコカやスイカについては、令和7年3月30日から広島電鉄及びグループ会社の電車とバスでは利用方法が変更になるため、ホームページ等で確認をお願いしたい。大きな変更点としては、これまでは乗車時と降車時にタッチしていたものが、降車時のみのタッチになることである。周りの方への周知をお願いする。

委員：イコカ等について、市内均一料金であるため、降車時のタッチのみに変更するということか。

委員：市内の電車については、降車時のみタッチすることになる。バスについては、整理券を運賃箱に入れると料金が確定するため、降車時のみのタッチで対応できる。

委員：報告1号のことになるが、佐伯地域の玖島線では、モビリーデイズの利用者数が18人、利用率は1.9%となっている。小中学生の定期券利用者は延べ利用者数に含まれているか。

委員：利用者延べ人数については含まれているが、定期券は紙で発行しているため、モビリーデイズの利用者延べ人数には含まれていない。

(4)その他：市内のキャッシュレス決済方法の統一について

《質疑応答・意見》

委員：廿日市市では市の自主運行バス（路線定期）については、全路線にモビリーデ

イズを導入している。一方で市内の公共交通を見ると、JR西日本宮島フェリーではモビリーデイズが未設置、宮島島内乗合タクシーのメイプルライナーはキャッシュレス決済自体が非対応になっている。このため、廿日市市内の公共交通で、モビリーデイズとイコカの使い分けが利用者にとって難しい状況が生まれている。

廿日市市内を運行する公共交通について、全路線でイコカとモビリーデイズが利用できるよう整備を検討していただきたい。

事務局：様々なICカードが普及し、利用方法が複雑になっていることは認識している。フェリーについては、宮島松大汽船はモビリーデイズを導入している。JR西日本宮島フェリーへも設置の提案しており、現時点では検討中の段階である。他にも、中山間地域を運行するデマンドバスは、導入検討時点で、モビリーデイズでの運用は適していないと判断したため、導入していない。現在設置が出来てないところについては、今後、導入ができるかを検討してみたい。

#### (5)その他：モビリーデイズの登録支援について

##### 《質疑応答・意見》

委員：モビリーデイズの登録について、高齢者は個人で出来ない人の方が多いと思う。地域に入り、老人会などの細かい単位でも登録支援をしていただけると聞いていた認識である。地域に入って登録会をしないと普及しないと思う。

事務局：モビリーデイズの登録については、広島電鉄と協力して行っているが、中山間地域では十分な回数の説明会は出来ていないのは事実である。高齢者割引については、マイナンバーカードだけでなく、免許証や保険証でも制度を受けることができるように調整している。市独自のサービスについては、きめ細やかに地域を回ることを考えている。

委員：地域で取り組み、周知する人がいないとモビリーデイズは普及しないと思う。

事務局：各支所とも連携して、今後の取組を検討したい。

## 4 閉会